

部屋の中からも
1年中緑が楽しめる

家と庭との幸せな関係

ここで紹介する3軒は、建築家が設計した家に造られた庭です。家の構造と敷地の形状を巧みに活かして、懐かしい自然の情景を再現した空間となっています。

設計 田瀬理夫 プランタコ

CASE 1

リビングに続く庭だけでなく 家のどこからも庭を楽しむ

東京都・福生市 Tさんの庭

新築住宅が建ち並ぶ街で、板塀から木の枝が自由に揺れて顔を覗かせているT邸。玄関ホールから目の前にカツラの木が丸い葉を揺らす中庭が見えます。奥のリビングには、大きなガラス扉がはめられ、部屋の続きであるかのように庭が見えます。庭と反対側の窓からは、窓枠を額縁のようにしてカツラの中庭を眺められ、部屋のどこに座っても外の景色を楽しむことができる設計です。

Tさんの庭作りは、家が建ってから3ヶ月後に始まりました。通常庭へは家の土台の高さ分だけ下りるのですが、ここでは床、デッキ、庭がほぼ同じ高さになっています。これは田瀬さんが考案したフトンカゴ工法を用いた庭作りだからできると言える手法です。洪水を防ぐため川辺に置くフトンカゴにヒントを得て、方形の金網カゴの中に人工土壌（アクアソイル）を入れ植栽を施したものです。建物との間は風が通るようにデッキを造り、その先に床と同じ高さになるように金網カゴを並べて土を入れて芝を貼り、周りに百種類以上の野山の草木が混植されています。部屋から途切れることなく内も外も一体化して広がりを見せたいという、建物の設計主旨を十分に汲み取った庭です。庭先の板塀に沿って植えてある木立の際には、一段下がった所に小径があり（実はここが本来の地面の高さ）、道を辿ると中庭まで歩けるようになっています。

高村さん夫妻の庭作りのリクエス

リビングから

中庭が見える気持ちのよいホール。カツラの木が印象的だ。ライトアップも可能。壁にはティカカズラが小さな葉を這わしている。

玄関ホールから

2階ホールからは中庭の木々のこずえが見える。床のグレーチングは1階ホールの明かり採り。

2階ホールから

中庭側に開いているリビングの大きな窓。ソファに座ると背後に中庭、正面に主庭を楽しむことができる。

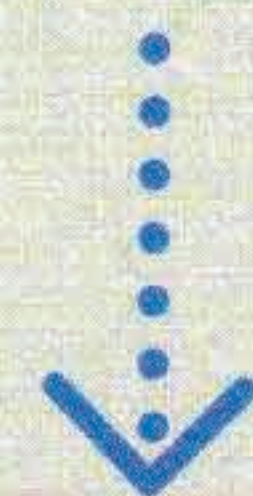
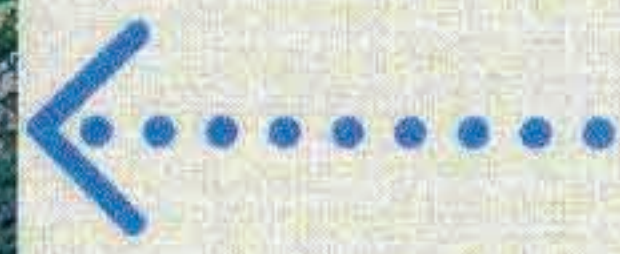
庭に面して大きなガラス扉がつけられたリビング。庭は金網カゴを使い、地面から40cm高くなっている。左に見える栗の木の下には亀の池や小さな菜園がある。

リビングから

小さくても狭くない お隣の茂みをとり込んだ家と庭

東京都・大田区 Iさんの庭

ガレージの奥には中庭の緑の気配が外にも「おすそわけ」できる窓が。お隣の玄関に面したガレージ脇の壁には金網カゴを積んで側面と上面に植栽がしてある。



ガレージの向こうに
まばゆい緑があった！



大森海岸沖の船の汽笛も風に運ばれてくる山王の丘に建つI邸。敷地面積30坪という制約の中に、駐車場と庭を持つ家を造りたいと建築家に依頼して建てた家です。室内はスキップフロアになっていて、各部屋にある大きな窓からは、色々な角度で庭を楽しめます。

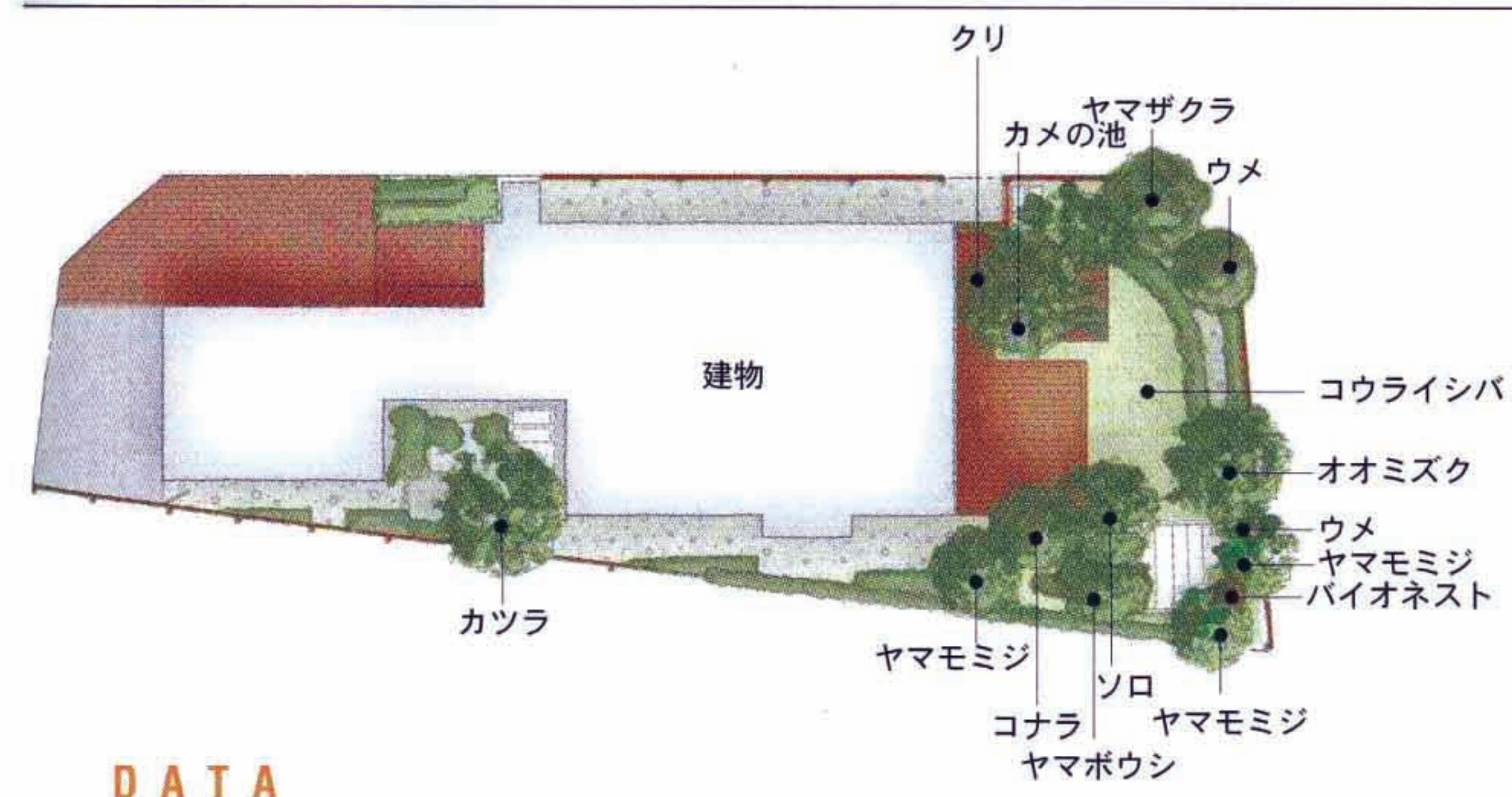
庭について夫妻で話し合ったのは、デザイナーに依頼して、日本の植物を植えた自然な感じの庭を造りたいということでした。しかも二人とも仕事を持っているので、手間がかからず雨水だけで保てる庭を望んだといいます。

面積的には小さな庭ですが、金網カゴを使って中庭全体を床やデッキと同じ高さにしてあるので、室内から空間が連続し、広く感じられます。庭にはたくさん種類の植物（木も草も合わせると約70種）が植えられ、季節ごとに様々な表情を見せてくれるそう。塀を隔てて向こう側にあるお隣の茂みは立派な借景です。

この既存のコンクリートの塀は、お隣の傾斜に合わせて天端が斜めになっています。部屋の中から眺めた時それが気持ち悪いということで、水平に補正するためフェンスを取り付け、斑入りのクズやヤマホロシなど



Tさんの庭



DATA

所在地	東京都福生市
敷地面積	約120㎡
作庭面積	80㎡
費用	280万
工期	5日

庭から一段下がった小径は砂敷きで歩き心地がよい。剪定枝葉を集めたバイオネストや、木陰のテラスがあり隅々まで庭を楽しめるようになっている。



ヤマモミジ、コナラ、オオミグワ、ヤマボウシなど、樹々は紅葉して冬には葉を落とし、緑の芽吹きで春を告げる。昆虫や野鳥もやってくる。

トは梅の木を一本と亀の池だけ。「出来上がったのは、新緑の芽吹きから、紅葉、冬芽の膨らみと四季の移ろいを、各部屋の窓から楽しめる庭でした。神経を使う仕事をしているので家へ帰ると休まります」



2階の部屋から

堀に取り付けたメッシュフェンスに斑入りのクズが絡み、「緑の水平な堀」になった。

中2階から

地面から半階分あがったスキップフロアならではの眺め。お隣の茂みも自分の庭のよう。



勝手口へ昇る階段にもテイカカズラを絡めて緑の楽しみが。裏手に回ると、落ち葉を溜めるスペースがあり、窓から顔を覗かせるように樹木が植えられている。

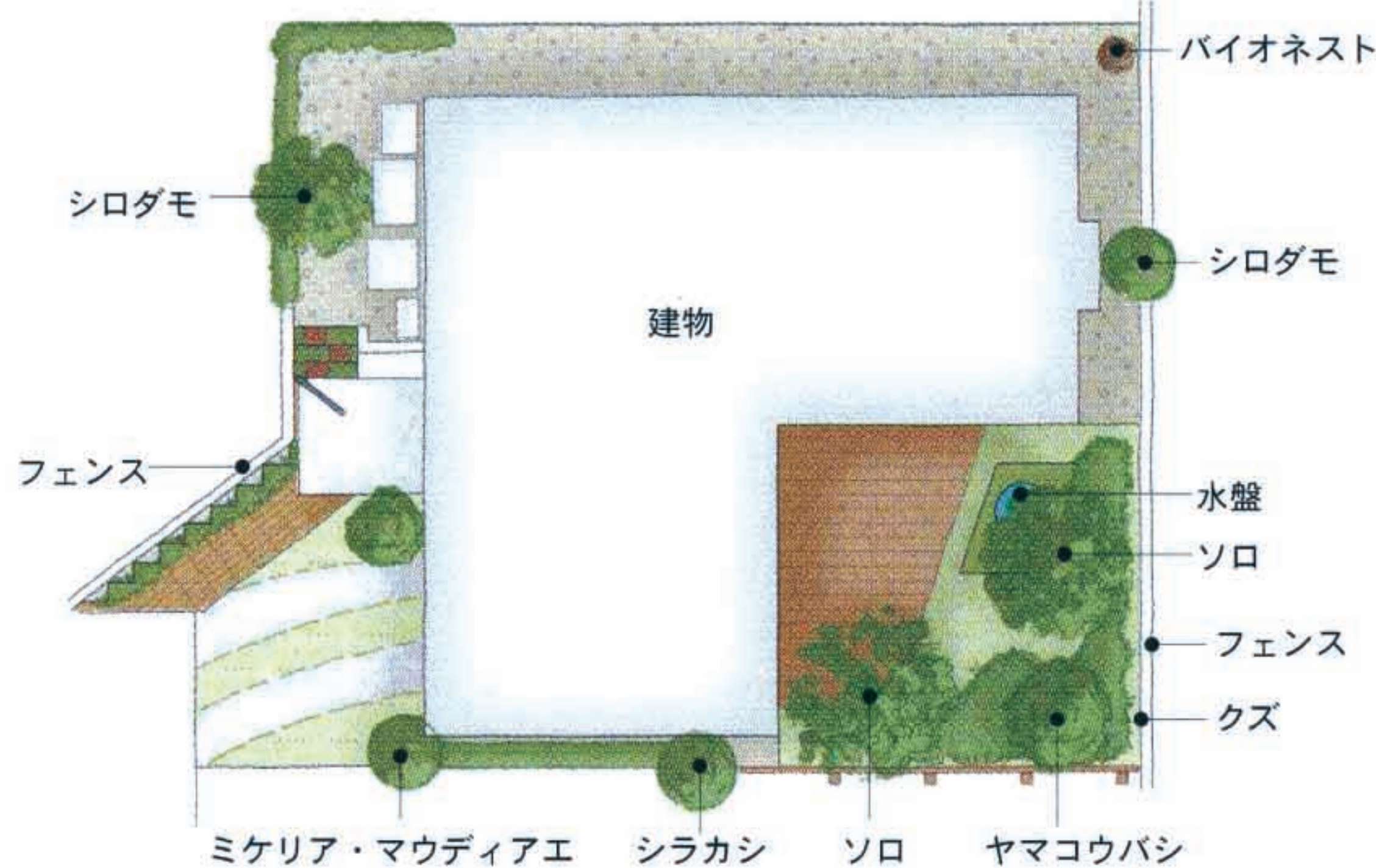
リビングから

床から同じレベルで「もうひとつの居間」である庭へ。イヌシデなどの高木とイタヤカエデ、ウツギ、シラキなど30種以上が混植されている。チャノキ、サンショウなど食用になる木もある。



金網カゴの中に埋め込まれた水盤。側面にはテイカズラ、上面にはアゼターフの他、コナラやクヌギ等の苗や低木類が植えられている。水面に浮いているのはヒシとヒツジグサ。

Iさんの庭



DATA

所在地	東京都大田区
敷地面積	106㎡
作庭面積	27㎡
費用	165万円
工期	3日

里山の自然を手に入れる!



㈱(株)アネックス5×緑緑化事業部
☎03-3280-2041
<http://www.5baimidori.com>

「5×緑」と書いて「ゴバイミドリ」と読みます。土地の狭い都会でも立体化すれば、緑地面積は5倍。4側面にも植栽された緑のキューブに里山の植物を植えています。キューブの中には、軽くて保水性の高い土が使われています。「5×緑」の植物に対する考え方を象徴しているのが「アゼターフ」です。キキョウ、ナデシコなど、今では貴重な里山の畔に咲く草花を集めたもので、「5×緑」の里山ユニット(写真)にも使われています。ベランダや庭先に置くだけで、里山の風情を楽しめます。組み合わせで緑の堀や囲いなどを作ることができます。



様々なツル性植物を絡ませて「緑の水平な堀」を作っています。
テラスの傍の一段高くなった金網カゴの中には水盤が埋め込まれ、そのまわりをアゼターフが覆っています。このアゼターフ、昔、畦道にあつたような野草を多種混植した植生マットで、20種類くらいの野草が含まれているそうです。水盤の底には田んぼの土が入っていて、ヒツジグサやヒシなどの水草が植えてあり、メダカやドジョウ、タニシまで育っているのだとか。暇があるとき庭に出て水盤を覗いてメダカウォッチャーになっているご主人は、都会の「里山」の庭にはれ込んでいます。
T邸と同じ建築家との協働作業です。

CASE 3

家をまるごと庭にする。 草木を植えて向かいの 家と一対で緑の街並に

東京都・目黒区 Yさんの庭

これは街と庭との
幸せな関係でもある



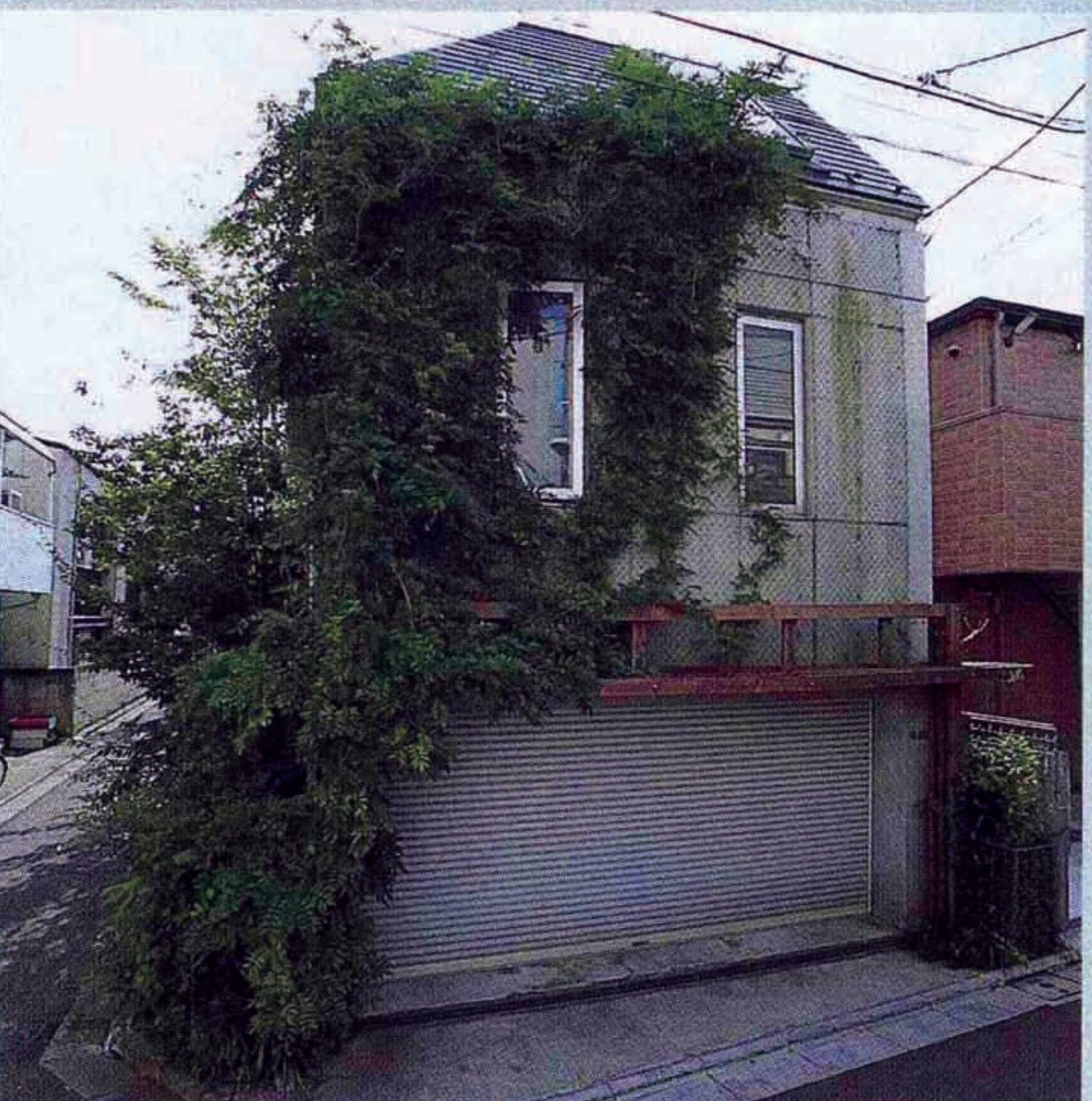
2軒の家がつくる街並み。近所の人の散歩コースになっている。木につけられたネームタグを眺める姿も見受けられる。写真の中、手前の壁がY邸。

2階ホールから



3階のテラスには桑などの食べられる木が植えられている。屋上の落葉樹が枝を広げ、トップライトからの夏の日差しがずいぶん和らいだ。冬は葉を落とし、暖かな光が部屋に届く。

フジが壁面を覆い、夏のコンクリート壁への蓄熱を和らげる。

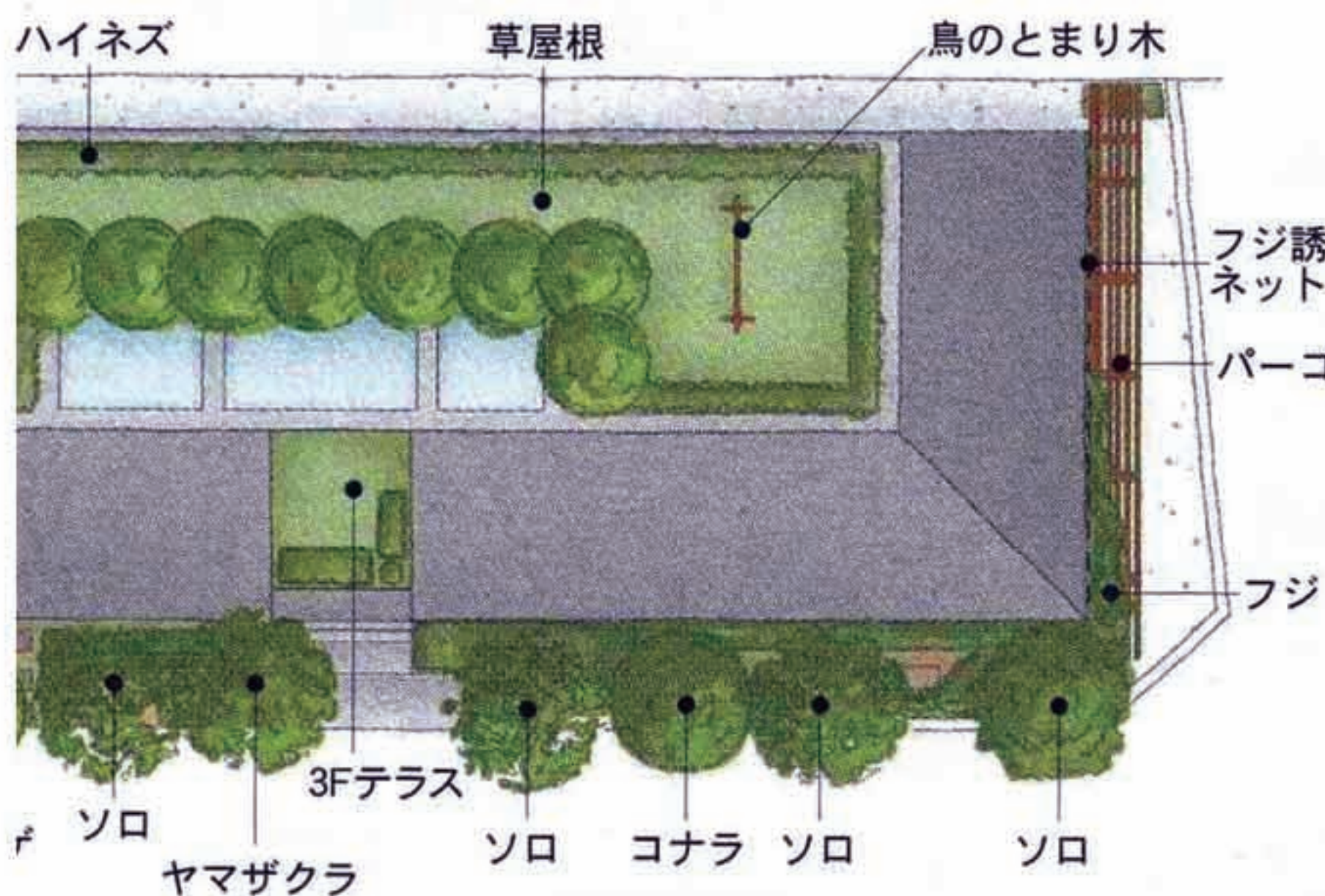


昔からの屋敷が残る中目黒の道をYさんの家へ向かい路地を曲がると、斜向かいの2軒の家にこんもりと緑が茂る光景が現れます。
コンクリート打ち放しの家の前には表情の異なる雑木が並び、屋根の上からも木の枝が空へ伸びて、印象深い家になっています。奥行き約1mの道路との境界に、オーダーメイド

の金網カゴを置いて人工土壌を詰め、側面にティカカズラ、上面には120種類以上の植物が植えられています。一昨年の夏、コンクリート打ち放しの家の夏の暑さを和らげようと、2度目の工事をしました。屋上に人工土壌を入れてトップライトに影を落す落葉樹を植え、南西面の壁にはフジを誘引する金網ネットを貼りました。

「周りのことは考えずに建てて、完成してから、お向かいの家の緑がともきれいだっただので、田瀬さんを紹介していただいたのです。2軒あれば、つながるでしょ。」とYさん。春には木々が一斉に芽吹き、初夏にはティカカズラが花を咲かせて香りを放ち、秋には葉を染めて季節を彩ります。

Yさんの庭



DATA

所在地	東京都目黒区
敷地面積	約90㎡
作庭面積	35㎡
費用	370万円
工期	1期・2期・3期 合計7.5日

株式会社ブランタゴ
電話／03-5910-2071
5×緑の問い合わせ
株式会社アネックス5×緑緑化事業部
電話／03-3280-2041

自由奔放に見える雑木がコンクリートの家の表情を変え、道行く人達の間を楽しませている。屋根の上にはハギやアゼターフが植えられ、鳥が種を運んでくれることを期待してとり木が置かれている。

前の道路から